

2022年度第3回新潟競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 湯沢特別

湯沢（ゆざわ）は、新潟県中部最南端の町。三国街道の宿場町として栄え、古くから温泉と観光の町として有名。苗場などのスキー場があり、首都圏から多くの観光客が訪れるリゾート地となっている。また、川端康成の小説『雪国』の舞台としても知られている。

○ 新発田城特別

新発田城（しばたじょう）は、新潟県新発田市にある城。周囲に菖蒲（あやめ）が多く咲いていたため、菖蒲城とも呼ばれる。慶長3年（1598年）に初代新発田藩主の溝口秀勝が築城した。石垣は、隙間なく積む「切込はぎ」という美観を重視した技法で作られており、城の表門前には赤穂義士の討ち入りで中心的な役割を果たした堀部安兵衛の像が設置されている。

○ 稲妻ステークス

稲妻（いなずま）は、空中電気の放電によって生じる電光。また、それが雲に反映したものの。動作が非常にすばやく、時間が極めて短いことの例えにも用いられる。本競走は、稲妻の如くダイナミックに直線を駆け抜ける競走馬をイメージして名付けられた。

<第2日>

○ 浦佐特別

浦佐（うらさ）は、新潟県南魚沼市の地名。一帯は上越の深雪地帯で、数多くのスキー場が点在している。また、浦佐にある普光寺の毘沙門堂で毎年3月の第一土曜日に行われる「浦佐毘沙門堂の裸押合」は、国の重要無形民俗文化財に指定されている。

○ 三面川特別

三面川（みおもてがわ）は、新潟県と山形県の県境にある朝日連峰を水源とし、新潟県村上市で日本海に注ぐ川。江戸時代から鮭の遡上で知られている。

○ サマーマイルシリーズ関屋記念（GⅢ）

全4戦で実施されるサマーマイルシリーズの第3戦。

本競走は、旧新潟競馬場の所在地「関屋」の名を残すため、昭和41年に創設された重賞競走。当初は2,000mのハンデキャップ競走として実施されていたが、50年には1,600mとなり、58年からは負担重量が別定に変更され現在に至る。

旧新潟競馬場は新潟市関屋字青山下百間割にあったが、戦後長期間にわたって中央競馬は開催されていなかった。昭和30年代後半になると競馬再開の機運が高まり、40年に新潟市東部の現在地に新たな新潟競馬場が完成し、22年ぶりに中央競馬が再開された。

また、水害から市内を守るために設置された関屋分水路は、日本海への通水から今年で50周年を迎えた。

<第3日>

○ 瀬波温泉特別

瀬波温泉（せなみおんせん）は、新潟県村上市、日本海に面した温泉。泉質は塩化物泉。別名「熱の湯」とも呼ばれる。明治37年に石油を掘削していたところ、温泉が噴出したことが始まり。同地はかつて、歌人の与謝野晶子が訪れ45首の歌を詠み残した場所であり、その名残として歌碑が置かれている。

○ 上越ステークス

上越（じょうえつ）は、新潟県南西部の市。昭和46年に高田、直江津の2市が合併し市制施行。上越の名は、越後国を上方（京都）から近い順に上越・中越・下越としたことに由来する。

○ タイキシャトル追悼競走 日本海ステークス

本競走は、去る8月17日（水）に死亡したタイキシャトル号の生前の功績を称えて追悼競走として実施される。

日本海（にほんかい）は、日本列島と樺太、朝鮮半島との間にあるアジア大陸の縁海。間宮・宗谷・津軽・対馬・関門の5海峡で外海と連なり、黒潮から分流する対馬海流、沿海州に沿って南下する諸寒流が流れている。

<第4日>

○ 閃光特別

閃光（せんこう）は、瞬間的に強く発する光のこと。本競走は、閃光の如く直線を駆け抜ける競走馬のスピード感をイメージして名付けられた。

○ 阿賀野川特別

阿賀野川（あがのがわ）は、新潟県と福島県にまたがって流れる川。延長約 210 k m。猪苗代湖に源を発する日橋川と尾瀬沼に発する只見川とが合流し、新潟市東部で日本海に注ぐ。流域には豊富な水量を利用した水力発電所が多く、電源地帯を形成している。

○ NST 賞

NST は、新潟市に本社を置く NST 新潟総合テレビの略称。昭和 43 年開局で、FNS（フジテレビ）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 5 日>

○ 岩室温泉特別

岩室温泉（いわむろおんせん）は、新潟県中西部にある温泉。泉質は塩化物泉。別名「霊雁の湯」とも呼ばれる。江戸時代から北国街道の温泉地として栄え、近接する弥彦神社への参拝客で賑わった。

○ 長岡ステークス

長岡（ながおか）は、新潟県中部にある市。信濃川の下流に位置するため、古くから河川交通が発達し、活発な商業活動が行われていた。夏に行われる「長岡まつり大花火大会」は、日本三大花火大会のひとつとして有名。

○ BSN 賞（L）

BSN は、新潟市に本社を置く新潟放送の略称。ラジオは昭和 27 年開局、テレビは 33 年の開局で共に TBS 系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 6 日>

○ 五頭連峰特別

五頭連峰（ごずれんぼう）は、新潟県北部、五頭連峰県立自然公園内にある菱ヶ岳と五頭山を中心とする連峰。新潟競馬場の向正面奥に見える。周辺は温泉・キャンプ場・ゴルフ場などが充実しており、シーズン中は多くの観光客が訪れる。

○ 朱鷺ステークス（L）

朱鷺（とき）は、ペリカン目トキ科の鳥。学名は「*Nipponia nippon*（ニッポニアニッポン）」。国際保護鳥、国の特別天然記念物に指定されており、また新潟県の鳥でもある。明治時代の中頃までは日本各地に生息していた。佐渡市にある「佐渡トキ保護センター」では、トキの保護・繁殖が行われている。

○ 新潟2歳ステークス（GⅢ）

本競走は、昭和43年にオープン特別として創設された『新潟3歳ステークス』を前身とする重賞競走。56年に重賞競走に昇格した。平成9年には距離が1,200mから1,400mとなり、さらに14年からは1,600mへと延伸され、2歳世代で最初に実施されるマイル重賞となった。

<第7日>

○ 瓢湖特別

瓢湖（ひょうこ）は、新潟県阿賀野市にある人造湖。白鳥の渡来地として有名で、11月下旬頃のピーク時には5,000羽を超える白鳥が飛来することから、国の天然記念物や鳥獣保護区に指定されるとともにラムサール条約登録湿地の指定も受けている。

○ 赤倉特別

赤倉（あかくら）は、新潟県南西部、日本百名山のひとつである妙高山の山腹に位置する温泉地。文化13年（1816）に高田藩主榊原氏が開湯したことに始まると言われる。泉質は、硫酸塩と炭酸水素塩の2つの泉質を併せ持っており、効能は多岐にわたる。秋の紅葉や冬のスキーシーズンには多くの観光客が訪れる。

○ 古町ステークス

古町（ふるまち）は、新潟市中央区の地域名。信濃川、関屋分水および日本海に囲まれた、新潟島と呼ばれる地域の中央部に位置する。新潟最大の繁華街で、多くの商店や飲食店などが立ち並ぶ。

<第8日>

○ 飯豊特別

飯豊（いいで）は、山形・福島・新潟の3県にまたがる連峰の盟主とも言われる山の名

前。名は、山容が飯を豊かに盛った姿に似ていることに由来するという説がある。最高峰は標高 2,128m の大日岳。非火山性の山としては東北一の高さを誇る。

○ 両津湾特別

両津湾（りょうつわん）は、新潟県佐渡島の北東部にある湾。定置網の漁場としては日本有数で、イナダやブリなどの漁獲が多い。湾奥には両津港がある。

○ サマー 2000 シリーズ農林水産省賞典新潟記念（GⅢ）

全 5 戦で実施されるサマー 2000 シリーズの最終戦。

本競走は、昭和 40 年の新潟競馬再開と同時に創設された重賞競走。創設当初から 3 歳以上、2,000m のハンデキャップ競走として実施されている。40 年代には秋に実施されていたこともあったが、49 年以降は夏季に行われており、夏の新潟競馬の総決算として定着している。

○ 雷光特別

雷光（らいこう）は、稲光・稲妻のこと。本競走は、直線 1,000m のコースを、競走馬が雷の光のように一瞬で駆け抜ける様子をイメージして名付けられた。